

んでいきたいなというふうに思ってます。大事なのは、やっぱりこれからも応援してるよ、糸魚川は、私たちのふるさとというのはこういう地域なんだよというふうなメッセージを、熱いメッセージを、成人を迎えた子供たちに送り届けたいというふうな思いでいっぱいであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

東野議員。

○9番（東野恭行君）

地方によっては、18歳の新成人に対するお祝いは、行わないという地方も結構多いのかなというふうに感じております。そういった中で、糸魚川市におきましては、この18歳の新成人を祝う会を大切な事業だということで位置づけられてることにしましては私も同感しておりますし、継続していただきたい、このように思っております。さらなるいい内容を考えていただいて、新成人にしっかりとお祝いの気持ちを伝えていただきたいですし、新成人の皆さんも喜んでいただけるような、そういった事業を展開していただきたい、このように思います。

以上で、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（保坂 悟君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

関連質問なしと認めます。

11時10分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時01分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。〔11番 田中立一君登壇〕

○11番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づき、一般質問を行います。

1、防災について。

能登半島地震から間もなく1年がたとうとしており、次第に収まりが見えてきたかに思えたが、

先月26日には震度5弱（糸魚川は震度3）の地震が発生した。

元日の地震では多くの市民が避難し、市内で初めて液状化現象が見られ、擁壁が崩落し、住宅も各地で被害を受けた。

また、下水道管も数か所損傷するなど、生活インフラにも影響があり、最近になって地震が原因と見られる農道の崩落なども発生していることから、能登半島地震の教訓をどのように捉え、検証し、見直しをしているか、以下伺う。

(1) 液状化と擁壁の崩落について。

- ① 液状化被害を受けた住宅は最終的に何件で、液状化調査は能生・青海でも行われたか。
- ② 今後、液状化のおそれのある地域への対応はどのように考えているか。
- ③ 京ヶ峰地区の擁壁崩落は「空積み」が原因と聞かすが、市内に同様の「空積み」の擁壁についての調査は行われたか。

(2) 避難施設と運営について。

- ① 施設の収容数を超えた避難者の場合の想定と対応について。
- ② 私設の自主避難所への支援について。
- ③ 「避難指示発令」以外に発令等見直しの検討をしていることはあるか。
- ④ 自宅等避難施設以外の避難者把握に対する考えについて。
- ⑤ ペット同行避難の庁内関係各課、保健所の連携と避難訓練について。

(3) 耐震シェルター・防災ベッドの普及について。

- ① 耐震シェルターの申込み状況を伺う。
- ② 能登半島地震後の耐震診断について、申込み状況を伺う。

(4) 上下水道設備の耐震化について。

能登半島地震では「水」が使えることの重要性・公共性が改めて認識され、教訓にして上下水道の地震対策を強化・加速化するため、国土交通省は9月末、水道事業を担う市町村ごとに「水道カルテ」を作成し、年内をめどに公表すると明らかにした。水道管などの耐震化率や料金水準が簡単に把握できるようにするという。

- ① 市内の上下水道の耐震化の状況について伺う。
- ② 災害に強く、持続可能な上下水道システムの構築に向けて「上下水道耐震化計画」の策定取組について伺う。

2、古民家について。

人口が減り、集落に空き家が増え、環境悪化や治安の悪化などで周辺住民にとって大きな課題になっている。

一方で、建築年数が50年以上、中には100年以上たっている古民家と言われる建物は、現在では使われない太い柱やはりなどを用い、建材が味わい深い趣を作り出しているところから、店舗等に重宝されている。

市内にこのような古民家がまだ多く存在しており、空き家になっているモノもあるのではないかと。

個人の所有物であるが、地域の歴史的、文化的な貴重な資源として保存、利活用する取組について考えを伺う。

3、農業政策について。

(1) 来年度の主食用米の生産量目標と作付面積目標について。

新潟県農業再生協議会は米の品薄を受け、本年産目標を1万6,400トン上回る56万2,400トンにすると公表した。糸魚川市は本年、県内で唯一前年産より目標を下に設定したが、来年度の目標をどう考えるか伺う。

(2) 第6期中山間地域等直接支払制度について。

集落機能を強化し、コミュニティとしての維持を意図して第5期の「集落機能強化加算」が措置されたと言われるが、第6期では見直しされる報道がある。第5期との違いと第6期に対する取組状況を伺う。

以上、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目と2つ目につきましては、被害を受けた住宅は6件で、現在、国と連携し、被災した地域を中心に調査を行っております。

今後、被災地域以外の調査について、手法も含め、検討を進めてまいります。

3つ目につきましては、市の管理施設の一部において調査を行っております。

2点目の1つ目につきましては、避難者が収容数を超える見込みとなった段階で、避難所を順次開設する対応を行っております。

2つ目につきましては、自主防災組織補助金などによる支援を行っております。

3つ目につきましては、国の避難情報に関するガイドラインに基づき対応いたしております。

4つ目につきましては、自主防災組織による自治会単位での把握が重要な手段であることから、引き続き、防災訓練での取組を周知してまいります。

5つ目につきましては、通常の避難訓練の中で実施いたしております。

3点目の1つ目につきましては、補助制度への申込みはありません。

2つ目につきましては、18件の申込みがありました。

4点目の1つ目につきましては、5年度末の上水道基幹管路の耐震化率は38%、簡易水道は46%、下水道の重要な幹線は52%であります。

2つ目につきましては、一体的に耐震化を推進するため、上下水道耐震化計画を策定中であります。

2番目につきましては、古民家は空き家として一定のニーズがあることから、空き家バンクに登録していただくことで、利活用が図られるものと考えております。

3番目の1点目につきましては、県の方針に基づき、生産量を引き上げるよう、関係機関と連携を図り、収量及び品質の確保について、生産者へ周知してまいります。

2点目につきましては、第6期制度では、ネットワーク化とスマート農業の加算措置が創設されると聞いております。

各協定の実情を踏まえ、必要とする加算措置の活用を周知してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

すいません、質問の順序を3番の農業政策からお願いします。

今答弁をいただいて、引き上げるように働きかけをします。現実的にはどうなのかなという、その感触をまず伺いたいところなんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

実情といたしまして、やはり自然減、いわゆる耕作放棄される水田も多くございますが、現在、飼料用米を作付している田んぼですとか、転作物やっておられる田んぼもございますので、そうしたものを主食用米のお米の生産に回せないかということで、今後、関係機関、また農家の皆さんと相談し、できるだけ県が示す目安に近づけるよう、作付面積の増加に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

1つは生産者の生産意欲、モチベーションが上がるかどうか、そういったところがあるんじゃないかなというところを思うんですけれども、それには今年、仮払金が大幅に増加をしました。この仮払金の増加、これからどうなっていくのかなと思うんですけれども、それに対して、また肥料とか、あるいは資機材が、燃料が非常に上がっておるわけですけれども、このモチベーションを上げていくためには、もうかるという感覚がないとなかなか難しいのかなと思うんですけれども、生産コストというのは、この市内の農家の生産コスト、また、もうかるのかどうか、その辺の今の状況はどのように捉えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

農林水産省では、毎年、お米の生産コスト、具体的な数字を公表しております。令和5年、昨年の生産コストでございますが、60キロ当たり、1袋当たり1万5,948円というふうに公表いた

しております。これはあくまでも個別経営体ということで、個人の農家、いわゆる法人組織等でなくて個人なんですけども、それに対しまして今年度、令和6年度のコシヒカリのJAの仮渡金、糸魚川地域では1万9,100円ということで、単純に数字比較いたしますと収入が支出を上回るような状況になっておりますが、この公表されてる数字につきましては全国平均ということですので、当然、経営体の規模ですとか地形的な条件、いろんな条件が重なってまいりますので、この数字というのは一概に捉えることはできないと思います。私どもも今年の収穫が終わった後、農家の皆さんから、また、関係機関と協議していく中では、なかなかやはり厳しい状況、経営状況が厳しいという声が多いのかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

今、コストを伺いました。また、仮払金の金額も伺いました。計算すると大体3,000円ぐらい、1俵あたりですね、60キロあたり。この辺の耕作条件を考えると、対象が少ない。それから耕作条件があまりよくない。この3,000円がどれだけ縮まってくるのかと。そういったところを市としても把握する必要があるんじゃないのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

特にこの近年、生産コストの部分では、やはり資機材の高騰等ございまして、非常に厳しい状況が続いているかなというふうに捉えております。市といたしましても関係機関と協議いたしまして、やはり生産コストの削減という部分で、今、基盤整備ということで圃場整備の推進ですとか、いわゆる農業用施設、用水路、道路等の改築ということで、生産コストを下げるような施策は取っておりますが、今後とも農家の声を聞きながら、どうした施策が農家にとって収入につながるのか、その辺りは、また研究してまいりたいというふう考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やはり市内のそういった生産者のデータはしっかり取っていただきたいなと私は思うので、要望しておきますが、仮払金、農家の収入が上がることに、私は賛成ですし、これからもなんですけれども、それに伴って、やはり消費者価格、消費者米価、そちらのほうも上がっていくというのが今の政策の現状じゃないかなと。ここはやはり政策の見直しが必要なんじゃないかなと思うわけなんですけれども、進められております食料安全保障の観点からも、そういった見直しのほう、働きかけを

お願いしたいなと思うんですけども。やはりこの食料・農業・農村基本法、今これから食料自給率とかいろいろ取り沙汰されているわけですけども、やはり生産者がもうかって、消費者は毎日食べるお米が買いやすい、そういう制度でないといけないんじゃないかなと思うんですけど、その辺のお考えを、市としての考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

お米に限りませんが、やはり生産に係るコストが適切に、いわゆる販売価格、価格設定に設定されるということは重要なことだというふうに考えております。

ただ、今言われるように、やはり需要と供給のバランスもございます。今、国のほうでも、やはり消費者離れというのを一番恐れておまして、そのための米の量というのを、絶えず在庫量を確認しておりますので、市といたしましてもやはり売れるお米作り、いわゆる糸魚川産の場合ですとかなり品質が良いということで、消費者の人気もあるというふうに考えておりますが、今以上の品質向上に向けて、関係機関とも連携してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

米価が高くなって、お米離れが進む。あるいは外国産米に流れる。そういう循環がもし、それがあるとすれば、それは何とかしなければいけないし、米を主としているこの地域においても大きな影響が出るんじゃないかなと。私としては、やはり戸別所得補償方式、あるいはそれに準ずる政策をこれから市としても求めていってほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

私どもは、新聞報道でしか分かりませんが、やはり今、国のほうでは所得補償、また直払いというような形で農家を守ろうという議論もされておるといふふうに聞いております。具体的なものはまだ出てきておりませんが、今後の国の動きにつきましては注視してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

ぜひ国のほうへも、あるいは県を通じてでも、生産者を守って、先ほどお話しした生産意欲が高まるような政策のほうを要望していってもらいたいと思います。

もう一つは、昨年、特にそうだったんですけども、猛暑に強い米作り、これに対してどういうふうにされてるか。先日も生産者米価の大会があったりもして、そういったこともお話がありましたけれども、JAや農家を対象にして、暑さに強い米作りの研修会が結構あったよというふうに聞いているんですけども、そういうことへの生産者の研修会等に対する考えというのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

昨年の高温・渇水の状況を受けまして、今年度から農協のほうでも、農家の皆さんに対しまして、田植の時期ですとか、水管理、かん水の時期等、いろいろとご指導させていただいております。今年の結果というのは、これから農協のほうでも精査すると思いますので、またそうした結果を見てまいりたいと思いますし、県のほうでも、やはり暑さに強い米ということで今、新しい米の開発にも取り組んでいるということでございますので、今後のそうした動きを注視しながら、農家の皆さんに適切な米作りができるよう、また市といたしましても、どういった指導ができるか検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

できればもうちょっと具体的な、こういう取組をぜひ市としては力を入れていきたいとか何かあれば伺いたかったところです。もしあれば、また次のあれでお願いします。

この（2）のほうとも関係してくるんですけども、結局、中山間地直払いだとか、ほかの多面的機能とかという、そういったこともあるんだけど、5年ごとの単位になっているわけで、市内の今、もうこれから5年後、さらには10年後の先の農業というものをどのように捉えているのかなど。市としては、その辺どのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

日本型直接支払のほうは、今言われるように5年単位になっております。今、私ども10年先の農業、どの農地を、誰が、どういった作物を作るかということで、地域計画ということで各地域に

入らせていただきまして、声をお聞かせいただいて、その計画を年明けから取りまとめして、公告する予定になっております。なかなかやはり、担い手、高齢化という部分で厳しい状況が続いております。国のほうでも、今後はやはり個人農家というよりも組織化、やはり集落営農ですとか法人化ということがやはりコストを下げの上でも一番大きなウエートを占めるんじゃないかということをおっしゃっておりますので、糸魚川市としても非常に厳しい状況が続いておりますが、やる気のある農家さんもたくさんおられますので、そうした皆さんとお話をさせていただきながら、もうかる農業について、今後も農家の皆さんと話し合っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

先ほどからの話の中であるように、やる気、生産意欲、それがどうかというふうになってるわけですね。今かなり大規模化、集積も進んできているわけなんだけれども、今年の特徴としては仮払金が上がったわけだけれども、直接販売している生産者の方は、逆に収入があまり上がらなかったという話も聞くんですけども、その辺の把握は、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

私ども、なかなかの農協へ出荷されたお米については動向等を把握しておりますが、直接支払いされてる農家ということになりますと、法人・個人も含めて多数おられまして、なかなか具体的にそうした声というのは聞いていないというのが実情でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

あらゆるそういったものも、情報は必要なんじゃないかなと思うわけでありませうね。

（2）のほうになっていきますけれども、この第6期のほうにおいては、機能強化、ネットワーク化ですね、ネットワーク化を今度推進するというふうになっているんですけども。糸魚川において、今の集落協定の中でネットワーク化がなかなかどうなのかなという懸念もあるんですけども、先ほどの答弁ではネットワーク化を進めていく、あるいは加算措置のほうに期待する話があるんですけども、ちょっとその辺の考えを具体的にお願いできますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

まだ、この制度につきまして最終的な結論というのが出ていなくて、今、農林水産省のほうでも、今までありました集落機能加算というものの制度をどうするかということを中心に議論されているようです。ネットワーク化というのは、遠くの集落と手を結ぶというのも一つなんですけども、いわゆる1つの集落内で、いわゆる農業をしていない、いわゆる非農業者の皆さんですとか、例えば組織でいいますと青年会や老人クラブ、婦人会というような組織があると思いますけども、そうした皆さんと一緒に集落を守る、農業を守るというようなやり方も一つの加算事業になるのかなというふうなことで今、農林水産省のほうから聞いておりますので、今後の農林水産省の具体的な動きを見ていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

その集落機能強化加算なんですけれども、これに取り組む集落というのは、協定にしているところは、今回見直しになった大きな原因は、やってるところが少ないというふうに言っているわけですよ。数字にしても大体全体の2%とかというふうに、もうネットやなんかを見るとあるんですけれども、糸魚川は、この取組についてはどういうことになってるか分かりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

集落機能加算につきましては、参加協定が少ないということよりも、やはり費用対効果の部分での、いわゆる財務省との関係なのかなというふうに私ども報道を見る限り、考えております。糸魚川市内におきましても、全ての協定入ってるわけではございませんけども、いわゆる地域の花壇作りですとか、地域の、いわゆる集落内の道路の整備ですとか、いわゆる農業施設とは別の部分の活動に利用できますので、そうしたことで加算に加入している協定もございます。そうしたことで集落の維持に努めておるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

私は、この集落機能強化加算も必要なことじゃないかなとは思っているし、これを当てにしているといいたいでしょうか、いろいろと取り組んでいる集落もあるわけですよ。もしもこれがなくなったらどうなるのかなということを想定した場合、どのようなことが考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

やはり集落を維持するために、集落の景観保全等に努力して、こちらの加算金を利用されている集落も多くございますので、やはりこの制度そのものが廃止ということになりますと、集落の活性化という部分に大きな影響が出るのではないかとこのふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

黙って我々も見守っているのかなという気もしないでもないんですけどね。もうちょっと声も上げていかなきゃいけないんじゃないかなと思ったりするわけではありますが。

もう一個、今後の農業についてなんですけども、新たな取組の中で、去年あたりから地域おこし協力隊が集落に入ったりということで期待をされているわけなんですけれども、もしもそういった、募集をして集まるものならば、1つ、そのミッションの中に無農薬とか、あるいは減農薬に対する取組の人を募集する。これは、こっちになってくるのかな、ちょっとあれなんですけども、そういう考えというのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

確かに今回、地域おこし協力隊の方2名、糸魚川で採用しておりますが、そのときに、採用にならなかった方の中で現場を見に来て、いわゆる無農薬農業をやりたいという、非常に積極的にやりたいということを言っておられた方もおられました。

ただ、実際、現場を見にきたときに地形的な条件等で、やはり自分の田んぼで無農薬やっている、虫ですとか病気ですね、入ったとき、隣の田んぼが近いというようなことで、なかなかちょっと厳しいのかなということで諦めたという方もおられます。ですから、糸魚川市といたしまして、そうした農業、多様性のある農業というのは必要だというふうには考えておりますので、そういう条件でおいでになられても、また相談には乗っていきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

応募する段階において、こういう無農薬、あるいは農薬を減らした農業をミッションとして最初からやっていく。そのための条件もどうやったら整えられるのか、そういうのをもっと積極的といったらいいんでしょうか、見据えた、せっかくやりたいと言ってこられた方が、最終的に選ばなかったというのは、もったいないというか残念だなという、その話も私も聞いたわけなんですけれどもね、これはやはり増やしていかなきゃいけないんじゃないかなと。地域によっては、それを無農薬で作った産物を学校給食に当てると。無農薬のものは、どうしても単価が高くなっていく。生産コストが上がってくるわけだけでも、1つの、農林水産課なら農林水産課だけじゃなくて学校教育のほうの費用といましようか予算、その中で連携する中において、食育といましようか、含んでいくのにも大きなものがあるんじゃないかなと思うんですけども、考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

地域おこし協力隊につきましては、やはり地域からの要望というのが、希望というのが一番大きいと思います。昨日の質問の中でも答えさせていただいてるんですが、やはり地域おこし協力隊ということになりますと、特に農業の場合ですと、営農ですとか日常の生活の指導というのはもちろんなんですが、3年間という期限の後、やはり地域に残っていただきたい。そうすると長期的な目で、長期的な支援施策ですとか永住に関わる支援を地域がどうやっていけるかということが、まず一番大事になってくるかと思えます。あと、地域の皆様との思い、いわゆる農業方法につきましても、地域おこし協力隊に募集される方と地域が求める農業が一致しないと、なかなか一緒になってやっていけないのかなというふうなことがございますので、地域おこし協力隊の応募された方の気持ちも大事ですが、やはり地域の方のご希望というのも尊重していきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

地域おこし協力隊でなくても、その地域、あるいは農業をやっていかれる方の中で、オーガニックについて関心をお持ちの方がやりたいという声を出せるような環境を、またぜひ進めてもらいたいなど。

先月でしたか、上越でもオーガニックフェスタが開かれて、大変なにぎわいをやりましたし、県内各地でやったりして、非常に関心が高い分野じゃないかなと。1つは、やはり農業の生き残りの中の方策として考えてもらいたいと思いますので、ここはよろしく願いして、次に、1番からお願いをいたします。

液状化でありますけれども、液状化の調査は、能生、青海でも行われたかということに対して、行っているのか、行っていないのかがよくあれなんですけれども、1月4日の報道では、能生、青

海地域などでも調査を進めるというふうな報道がありました。このことについては、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

液状化調査につきましては、現在、駅南・駅北地区をメインに調査のほうを行わせていただいております。1月4日に調査をするというお話だったんですけども、こちらのほうにつきましては、その前日でしたか糸魚川地域で液状化の現象が起きたという事案がありましたので、能生地域、青海地域につきましても、そういった事案があるかというものを調べるということで説明させていただいたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

先ほどの市長答弁では、住宅に関しては6件と。私も住宅と書いてあるから、それなんですけれども、この物件の中には、教育相談センターとか、あるいは住宅以外、例えば車庫とか駐車場とか、そういったものは含まれていないわけですよね。その辺、もし分かっていたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁にありました6件につきましては、主に中央区の住宅の件数になります。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

で、液状化のこの調査は、どこで何か所行われたか、もうちょっと詳しくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

液状化の調査につきましては、駅南・駅北地区におきまして、現地調査及び基本の文献調査によりまして、被害の概要、あるいは液状化のエリアの推定ということで、液状化現象の精査のほうを

行いました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

例えばボーリングの調査とかそういうことは、やったわけじゃないんですか、どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

ボーリング調査のほうにつきましては、春先からの調査の流れで、現在、駅北地区、中央区のほうで2か所、ボーリング調査のほうを実施してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

駅北地区で2か所というふうに伺ったんですけども、中央区のほうの住宅が6件、私としては、中央区のほうをしっかりと調査をして、何のための調査なのか、その辺をはっきり、目的もお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

先ほど大変失礼いたしました。「駅北地区」ではありません。「駅南地区」の間違いでございましたので、修正のほうをさせていただきます。

ボーリング調査の目的につきましては、今後、例えばどのような支援といいますか、ボーリングのデータに基づきまして、土質の状況とか水位とかを調べまして、今後どのような形で支援のほうをするかを踏まえて、要は今の既存のデータと、今度、今被災直後のデータのほうを見比べまして、支援策をどのようにするかを判定する材料ということで、今ボーリング調査のほうをさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

若干、追加整理させていただきます。

今までやってきて、春先までにやってきた仕事は、地形ですとか既存の文献、あと現地の踏査等で、どっちかという定性的に液状化の調査をしてまいりました。今現在、市長答弁にもございました、国交省と協力してというのは、少し欠けている部分に、実際にボーリング調査を加えて、液状化に対する危険値、安全値みたいな、そういうやつを前回の調査と併せて今回の液状化の被害の想定、被害エリアを決定したり、あと長崎課長が申しましたのは、その先で、今度そのエリアで住宅、実際に被害出た方、これから建てられる方へのどういう工法がいいか、それに対して支援はどうあるべきかというところを、この先、今検討しているという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

大分詳しく今、話伺ったんですけども、今の調査の結果はいつ頃出るのかなという話になってくるわけですね。危険値、あるいは安全値と今言われました、それは「値」ということですか、それとも土地の「地」なんでしょうかね、ちょっとその辺もはっきり教えていただきたいですし、今後の支援の体制、これによってどのように変わってくるのかなと。その辺の見通しもちょっと、ちょっと幾つか今言いましたけれどもお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほど、駅南のボーリング調査のほうを行っている状況でございます。そのデータを基づきまして、今ほど部長も申しましたとおり、今後の支援策ということで、今、国土交通省さんのほうと協力のほうをさせていただいて、ボーリング調査のほうが分かり次第、できるだけ早く、その辺の方向性を、まず市内のほうで決めさせていただきまして、それで少しでも早く、地元のほうには説明できる方向で、今作業のほうを進めさせている状況でございます。

○議長（保坂 悟君）

ほかの質問への答弁は、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほどお話ありました安全値（FL値）になりますかね。

○11番（田中立一君）

先ほど部長が言われた危険値とあって、その値は、「値」か、それとも土地の「地」なのか、どっちかよく分からないということ。

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 48 分 休憩〉

〈午前 11 時 49 分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

失礼いたしました。今ほどご説明したとおり、土質試験といいますかボーリング調査を行いました、危険な値ですね、を調べるということで説明させていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

値ということになると、それを数字で、ここは例えば10段階に表すのか5段階に表すのか、よく分かりませんが、それによってどのようになっていくのかなというところをまず示していただきたいなと。危険の値というと、なんかちょっと怖い感じもするんですけども、調査をする限りにおいては、その辺を今度、住民の皆様にも説明をしていかなければいけないんじゃないかなと思うわけですし、もう今、既に住民の皆さんは、やはり住んでいかなきゃいけないから修理も始まってんじゃないのかなと思うわけなんですけれども、その辺の説明に対する考えは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

宅地の液状化被害可能性判定に係る技術指針というものがあまして、そちらのほうでは、液状化に対する安全率、今ほど言われたFA値なんですけども、そちらのほうを基にしまして、算定される液状化の厚みといいますか層と、あと、地表の変位量、そちらのほうを液状化指標値から液状化の被害の可能性を判断することができるというふうにうたっておりますので、そちらのほうを精査させていただきまして、今後、作業のほうを進めさせていただく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

その値だとかボーリング調査の結果によって、ここはどういうふうな地盤改良をはじめ、住宅、あるいは土地に対してやっていかなければいけないというふうなものが出てくるんじゃないかなと思うんですけれども、そういったことを示されることによって、国からの支援、そういったものやなんかは、大分出てくるわけでしょうか。期待してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほどの調査によりまして、支援ということになりますと、今、市と連携しております国土交通省さんのほうと協議させていただきまして、例えば予防保全対策案みたいなものを検討中なんですけれども、例えば公共施設と宅地を一体とした面的な整備とか、あと、それに併せまして個別の対策案とか、そのようなものを検討させていただきまして、今後の支援についても検討する必要があるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

国の支援を受けられる内容があるなら、やはり早くやって示していただけたらなど。私の捉え方がちょっと違ってんのかどうかは分からないんですけれども、もう1年たつわけですから、そのようにお願いしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

いろいろ調査のほうをさせていただいてるんですけれども、なかなかちょっと進まない状況もありますし、今後、今言った点を踏まえて、少しでも早く住民の方に説明できるような段取りで進めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

よろしくお祈りしますが、これまでこういう調査をしますよとか、今調査状況がこういうことになってますとか、あるいはもう修理が始まっている家等については、教育相談センターは何か、今の段階でもなんかそのままのように見えるんですけれども、駐車場、まだべこべこになってます

わね。そういう地域住民に対して、これまでどんな説明だとか、あるいは対応というのをされたのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

駅南地区の調査に関しましては、その都度というわけじゃないんですけども、地元の役員の皆さんには説明しながら、進めさせていただきました。

なお、今回、土質調査を行うに当たりまして、その詳細につきましては、地区の回覧等で周知をさせていただいたとごさいます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

ぜひそのように進めてもらいたいですし、もう一個気になるのは、今相談センター、教育相談センターの話をちょっと出しましたけれども、ボーリング調査は、駅南だけのようにはしか、さっきの答弁は聞こえたんですけども、駅北、大町ですか、あそこは寺町ですか、その辺の多くのちょっと範囲を広げると、住民の方も住んでおられますし、工場、会社等もあるわけですけども、その辺の調査というのは行う予定は、あるいは行ったんでしょうか、あるいは行う予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今回の地震の被害で、一番目に見えて甚大な被害を受けたのは、やはり駅南地区でございましたので、まずは、そちらのほうで詳細の調査ということでボーリング調査のほうをさせていただきました。また、全体の調査の中でも、当然、今回の地形に似たようなところとかも把握はしておりますので、市長答弁にもありまして、また今後、この先につきましては、再度そういった手法を含めて、調査のほうを検討させていただきたいと思っております。

〔「議長、休憩をお願いします。」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時56分 休憩〉

〈午前11時56分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

議事の都合で、昼食時限のため休憩といたします。

再開を1時といたします。

〈午前11時56分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

午前中は、大変失礼いたしました。

まず、今やってる調査の目的のところから、まず説明のほうをさせていただきます。

当市の方針としましては、まず、実際に被害が生じた方々の、まず不安を取り除くことが最優先でございまして、あと被害の発生といたしますか、住宅周辺における、まず液状化の発生エリアを明確にすること、それと一番重要なのは、発生のメカニズムといたしますか、原因を特定しまして、今後の地震による再液状化を防止するために必要となる対策等を検討の上、住民に示す、こういった方向で、今調査のほうを進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

今、最終的にかどうかはともかく、調査の目的の話を聞く中で、再発防止の今話があったかと思うんですけども、これは個人の敷地内、あるいは建物の中においてもということに考えてよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

まだ、具体的なところまでは決めてないんですけども、まずは、今既往のボーリングデータがあるんですけども、そちらのほうを整理させていただきまして、まず、エリア等を決めさせていただきまして、その上で、先ほど私、ボーリングと言ったんですけども、実際、液状化が発生した要因ですか、そちらを確定するというので、今調査のほうさせていただきまして、今後そういった形

で、どのような形で対策を進めればいいのかという検討は、これから進めさせていただくというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

要因の確定は、確かに大事だし、だけど、もう発生してから間もなく1年。また余震なのか、あるいは新たな地震なのかが発生している中において、住民の皆さんは不安に思ってるんじゃないかなとは思いますが、その辺の見通しというのは、ある程度立っているものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今、国のほうと調査のほうを連携しながら進めさせていただきます。既存の地質調査といたしますかを基に、今後、解析のほうを進めさせていただきます。具体的にちょっと、いつかというのはちょっと明確には言えないんですけども、少しでも早く、住民の方にも周知できるような形で説明させていただく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

ちょっとまだ煮え切らないような、でも、もうかなり住んでるところも、あるいはそうでないところも個人のところは対応しているんじゃないかと思うんですけども、住んでるところなんかは、私も発生当時、見せてもらったりすると家が結構傾いたり、凸凹があったりしていて、ずっとそのまま住んでるわけにもいかないんじゃないかなと思うんですが、新潟やなんかの話、見ていると、健康被害の話もあったりするんですけども、そういった健康被害等の話というのは、どっか出てきているものなんでしょうか。あるいは把握されてるところ、あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

住宅の被害というのは、お聞きはしてるんですけど、今ほどおっしゃった健康被害というところまでは承知というか、お聞きしてないところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

本当にね、だからそれでいいなと思うんですけども、十分に住民と接しているのかなというのが一つ、先ほどからのやり取りで気になっているところでもありますし、今後の調査結果にもよるんですけども、支援制度も考えていくのかなと。支援制度も早くやって示さないといけないんじゃないかと。例えば新潟市は新潟市で、独自制度として新潟市液状化等被害住宅修繕支援補助金というのを設けてますよね。そういうのをご存じかと思うんですけども、糸魚川市としても独自制度を、そういうものを設ける予定はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

新潟市の独自制度というのも、私は新聞報道で承知しております。当市の独自方法といえますか対策につきましても、今後の調査結果を踏まえまして、また、庁内で検討させた上で、対策方法、どれがいいのかということで、進めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

新制度に前向きに取り組んでいきたいというふうを受け取ってよろしいわけですね。

京ヶ峰地区をはじめとした擁壁の空積みについてに入らせていただきます。

ちょっと今まで時間あれだったんですけども、市長の答弁では、管理している施設を今調査していると。これ、具体的にどこということとは言えないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

空積みの調査につきましては、まず、京ヶ峰の団地の東側、今回の造成ブロックが結構崩壊したところなんですけども、その東側に、当市が管理しております駐車場がありまして、そちらのほうの造成ブロックを調査させていただきました。

あともう一か所は、能生地域の旧能生体育館の市道白山線があるんですけども、ちょうどその東側に道路に並んでいるブロックといいますか、そちらのほうを調査のほう、させていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

能生地域、もうちょっと、能生体育館のところのブロックということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

言葉足らずで、すいません。旧能生体育館といいますか、能生体育館の向かいのちょっと高台になっているところに駐車場があるかと思うんですけども、そちらのほうの道路の北側というんですか、そちらのほうのブロックになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

私も地震発生時、京ヶ峰の被害があって、毎日のようにあそこの前、あそこの前というのは旧体育館のところを通過して、ここは空積みじゃないのかな、あるいは擁壁大丈夫なんかなと思って通っていたところでございます。今、福祉センター、旧ね、の建物もあつたりするわけなんだけれども、あそこを見ても、土台から少し傷んでるなということで心配はしているんですけども、そこも空積みだというふうにも断定していいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

磯貝生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今言った箇所につきましては、コア抜きによる内部調査を行いまして、コンクリートが充填されている方式だということを確認いたしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

ということは、それは練り積みという工法だというふうには受け取っていいわけですね、分かりました。ちょっと心配はしてたんですけども。

京ヶ峰のことに関しては、空積みだと。これが被害を大きくしている大きな原因だというふうには受け止めているわけなんですけれども、この工事を発注したのは、どこだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

今ほどの問合せは、京ヶ峰の空積みの部分の修繕をしたってところですか、あちらのほうは、空積みということを確認しましたので、私どものほうでコンクリートといいますか、充填のほうをさせ

ていただきまして、業者のほうは、後藤組さんに頼んだところでございます。

○議長（保坂 悟君）

課長、もともとその工法をしたところがどこだったかという質問だったんです。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後1時09分 休憩〉

〈午後1時10分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

大変失礼いたしました。当該地区につきましては、新潟県の住宅供給公社によりまして施工したということになりまして、昭和40年から45年にかけて造成したということで記憶しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

私も何だかの報道だったか何かで県の仕事というふうに聞いてはいたんですけども、現在は、先ほどの体育館のところじゃないけれども、建築基準法ですか、それによって全部空積みというのをしないで、練り積みのほうの工法になっているというふうな話も聞くんですが、違法ではない、違反ではないけれども、この宅地造成したのが空積みだということは、県のほうは、じゃあ知っていたわけですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

当時の基準では、胴込めにコンクリートを使うというブロック積みの基準はないということは承知しておりました。今回の発災を受けるまでに、あそこは空積みのブロックなんだという認識はなかったかと思いますが、こういう事象を受けて、いろいろ法令等を調べて、空積みだということは、県のほうも承知をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やっぱり違反ではないし、違法ではないし、認識があったかどうかはともかくとして、この発生したのが、でも空積みが大きな原因だと、先ほどからのやり取りの中でそのように受け止めた場合、県のほうから、このことについて何らかの反応といいたいまいしょうか、話というのはなかったんでしょうか。あるいは、逆に市のほうから、これを大きな原因だけどもということで詳しい調査、あるいは支援、そういったことの話はなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

特に我々のほうからは、県のほうに一応話をしたということはいたしませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

補足いたします。

県のほうは、当時の基準に当てはめて問題ない構造物であったということと、もう一個は地震だという、そういう認識でした。

ただ、私どもも実際、市民の方と接しておりますので、そこに、まだ家は何ともなくてもブロックが歯抜けをして崩落していると、いつ家が影響出るかということが分からないということで金額的には十分ではなかったかもしれないですけど、被災宅地の復元のほうの支援というのを、我々、京ヶ峰等を念頭に置いて、補助制度を市として創設して運営してきて、皆さんからご利用いただいたものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

やはり何回も言うように、違法でも違反でもないし、その当時の基準にはのっとっていただけども、幾ら地震とは言っても、原因がこうだということになった場合、何らかの、個人的な感覚的なものなんですけれどもね、県のほうも、その辺の考慮といいたいまいしょうか、責任の一端は少しは感じているのかなというふうには思って、今伺った次第なんですけれども。どうも今のやり取りだと、その辺のところは感じていないというふうに受け取ってよろしいわけでしょうか。それを酌み取っ

て市のほうでは、住民の方、被害に遭われた方に対して、市のほうではその辺の制度をやっているというふうに受け止めたんですけれども、それでよろしかったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

県から引き継いだものが空積みであって、それが今回影響を受けたことは、その後引き継いで、建築確認のときでも、その敷地を構うような建築確認行為もあまり出てきてなければ知りようがなかったということでは、責任という意味では、市のほうは知りようがなかったという気持ちはございます。

ただ、何回も繰り返しになりますけど、被災された方が気の毒だという気持ちというのはあるものですから、ぜひお金があれば引っ越しとかいろいろできるかもしれないですけど、実際には、なかなかできないですね。ですので、今のところに住み続けていただくために、最初は積み替えですとか事業者のほうと相談して、穴を開けて、コンクリに後から裏に注入して、安心して住み続けていただける環境を市としてつくっていったという状況になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

説明のほうは、大体分かりました。理解はしたつもりです。

ただ、県のほうが何もないのかなって、やっぱり何となくそういうもやもやとした気持ちが残るし、いかななものかなと思って、何回か聞かせてもらいました。分かりました。

その辺のところであれですけども、今住んでる方の話されましたけども、もしも50世帯に避難要請されたというふうに、約50世帯、この中で、ここに住めないで転居されたという方はおられましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

被災直後の調査させていただいてまして、3世帯の方が転居のほうをされたというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

本当にお気の毒だなと思います。分かりました。

ちょっと時間がなくなっただので、すいません、(2)のほう、収容者数については前回、ゆとり館のことで話もさせてもらったんですけども、少し触れたんですけども。例えばゆとり館にしても、災害によっての収容人数の違いというのものもあるわけなんで、ゆとり館に限らずだけど、もしそういうのがあれば、それによって収容人数が違うことを今後、示されたほうがいいんじゃないのかなと思うんですけども、その辺の考えは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

収容人数につきましては、地域防災計画に規定されているんですが、その後はコロナ禍で密にならないようにということで、さらに分散といったようなことで、その施設が何人という形は決まっているんですが、周知はしてないと。また、地域防災計画を見ても、マックスでということになっておりますので、周知は必要だと思いますし、また、行政のほうでも実際に把握しておくといったことは大切かと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

お願いします。

やっぱり災害別にも示したほうがいいんじゃないかと思ったり、見直しよろしくをお願いします。

何でもう一回、今回聞いたかということ、今度この地震で避難場所へ行ったら、ほかの地区の方でいっぱい入れなかったという区長さんの意見がありました。それをご承知かと思うんですけども、そういったことがあってはいけないんじゃないかなという中で調べてみたところ、VACAN Mapsというものがあるんですけども、防災DXの一つなんですけど、VACAN Mapsは、ご存じでしょうか。もう全国で200以上の自治体が、これを利用されているというんですけども、ご存じかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今、議員言われたものについてはちょっと把握はしていないんですが、ただ、県のほうで、別のシステムについて今検討しております、令和8年度運用開始を目指して進めているといったような状況です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

これは、VACANという会社が持っているアプリ、あるいはソフトと言ったらいいんでしょうか。これによって避難所の状況が全部、行く前にもうスマートフォンなりパソコンで分かる、そういうシステムであります。

今、消防長言われたように、この会社ばかりじゃないのかもしれませんが、そういうの、やはりあれば、非常に避難においても有意義なんじゃないかなと。県内ではこれを利用しているのは、私が調べた限りでは、長岡と見附だったかな、に、たしかあったかと思います。防災DXを進めていくなら、こういったことも視野に入れてやっていただきたいと思います。

あと、福祉避難所の話、来年からやっていくというふうになっているんですけども、要配慮支援者に対するの受入れ体制について、これまでも初日の日も一般質問でも話もあったりしたんですけども、その各避難する施設の中に福祉避難スペース、その受入れについての話が今までなかったなと思うんですけども、福祉避難スペースに対する考え方、あるいは体制というものは、どうなってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

福祉避難スペースにつきましては、今までの災害の中におきましても、まず、避難所のほうに一旦収容していただいた中で、個別対応ということで、個室等を準備しておったところです。今後の準備ということで申し上げますと、福祉避難所の施設の設置に併せまして、各避難所の中でも、そのスペースを事前に想定して確保しておくというところも計画をしております、体育館のようなワンフロアのところですと個室というのが難しいので、消防本部のほうともいろいろ知恵をいただきまして、簡単なテント方式のものを使ったりということで計画をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

今までこの福祉避難スペースの話題があんまりなかったなと思って、あえて聞かせてもらったんですけども、今計画をしていると。早くその計画を実現して、それから、やはり市民が知らないといけないんじゃないかなと。各施設において、福祉避難スペース、そこではどんなことができるか、また、そのための準備も必要になってくるんじゃないかなと思いますので、その取組をしっかりとお願いしたいと思います。

次、上下水道のほうなんですけれども、先ほど耐震化率等を伺ったんですけど、これって全国平

均からすると私の感覚としてはちょっと低いかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

先ほどの答弁のほうで申し述べたのが、基幹管路、基幹の耐震化率ということでお知らせいたしましたが、それに関していいますと、全国平均が28%になりますので、それよりは上回っている状況にあります。

ただ、今回の能登半島地震を受けまして、いろんな見方で、いろんな分析が今入っているところで、国のほうでも耐震化率については、いろんな方法で出す調査が入っております。その調査の内容によっては、全国平均に満たないものもございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

それにのっとして、耐震化計画というものができていくかと思うんですけれども、今答弁等は策定中ということなんですけれども、見通しとしては、いつ頃までに策定される予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

今回、やはりこの能登半島地震を受けまして、国のほうは、上下一体の耐震計画ということで、早急につくるようにということで、国からは依頼指示が来ております。今の状態ですと、1月末ぐらいまでには国のほうで報告が必要でありまして、国もそれを受けての公表を考えているということで、指示がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

それともう一つは、能登半島地震の教訓から、断水が長期化したということで、小規模分散の今考えていると、小規模分散も考えていくという話で、まず、能登半島のほうで、それを小規模分散化していくという話があるんですけれども、地形やなんか見ると、この地域もそういった地理的要件は同じのように思うわけなんですけれども、小規模の分散化、何か以前の合併前の状況に戻るような感じが、感覚的にはするんですけれども、リスクとしては少なくなるのかなと思うんですけれども、

もしもこれが進めていった場合の考えというのは、何かあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

地形的な問題があるかと思います。今まで国のほうでは、やはり経営状況を勘案いたしまして、広域化とかそういった形のを進めてきた経過がございます。

ただ、今回の能登半島地震におきまして、小規模といいますか、分散型も考えなければいけないんじゃないかというお話かと思うんですが、今現状でいいますと、糸魚川市の場合、簡易水道、こちらのほうは各谷谷で幾つかの水源を確保しておりますし、上水道につきましても水源については、何か所か確保した状況で運営している関係上、ある程度のカバーはできていると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

これから耐震化計画、これをまた実際にやっっていこうとなると、かなりの予算が必要になってくるのかなと思うわけですが、その辺の見込み、これからどうなっていくのかと思うんですが、その耐震化をやっていくに当たっての予算化というものは、今どのように考えてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山口ガス水道局長。〔ガス水道局長 山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

今回、計画の策定を指示されてます内容につきましては、令和7年度から5か年程度ということで指示があります。また、それ毎年フォローアップをする中で、国のほうでは把握するというところで、Q&Aには回答がございます。国のほうもこれを受けまして、それなりの補助事業のメニューを考えていらっしゃるんですが、今のところ、まだちょっと詳細のほうは分かりかねるんですが、今までも耐震については、やってきてないわけではございませんので、しばらくは、そのスキームにのっとった形で対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田中議員。

○11番（田中立一君）

水のことについて、本当に今回の地震を受けて、大変だなと、大事なインフラだなと思っているわけでありまして、しっかり耐震化計画の中で、できれば市民の負担が少ないほうがいいわけですが、そのような形で進めていくことをお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（保坂 悟君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。